

新庁舎になると何が変わるの？

市民に親切で使いやすい庁舎になります！

○市民利用の多い部署を1・2階にまとめて配置します。このメリットを生かして、来庁者がなるべく1か所で用事を済ませることができるサービス（ワンストップサービス）を実現していきます。また、議会の傍聴がしやすいように議場を低層階の3階に配置するなど、市民の皆さんにとって使いやすい庁舎になります。



ワンストップロビー（1階）

○来庁者用駐車場や市民協働専用空間など市民利用施設が充実します。また、1階に設置する「イベントスタジオ」では、観光やスポーツなどの情報を発信したり、コンビニエンスストアでは、町田の名産品を販売するなど、市の情報発信の充実や市内経済の活性化を図ります。



新庁舎立体駐車場（写真手前）

○案内業務も改善します。総合案内の担当職員が、“おもてなし”のころもって皆さんをお迎えし、お客様の相談・手続内容を把握したうえで、必要な窓口で「的確に」「分かりやすく」「迅速に」ご案内します。これにより、初めて市役所に来た方でも迷わず必要な窓口に行くことができます。

また、複数の窓口で用事がある方でも、総合案内担当者で窓口担当者が連携することにより、スムーズに相談や手続を済ませることができます。

現本庁舎と新庁舎の比較

	主なサービス・施設	現本庁舎	新庁舎
行政サービスの向上	総合案内係	あり	あり（充実）
	ワンストップサービス	なし	あり
市民利用施設の充実	来庁者用駐車場	86台	195台
	授乳室	1か所	2か所
	キッズコーナー	約6㎡	約15㎡
	カフェ・レストラン（喫茶・食堂）	約310㎡	約560㎡
	コンビニエンスストア	なし	あり
市の情報発信の充実	市民協働専用空間	なし	あり
	イベントスタジオ	なし	あり

行政運営が効率的になります！

ほとんどの行政機能が1か所に集約されるため、職員間の相互連携が密になるなど、情報の共有化が進み、スピード感を持った効率的な行政運営が可能となります。

ここに注目！

現在、別々の庁舎に分かれているライフラインに関する部署（道路、下水道、都市計画等）が1か所に集約され、災害発生時は3階にある災害対策本部室にすぐに集合し、市長の指揮命令のもと迅速な災害対応が可能となります。

ローコストな行政運営が実現します！

新庁舎の建設による経費の削減効果を年間約6億円と見込んでいます。

削減内容

項目	年間経費削減額	内容
建設に伴う削減効果	約5億4000万円	分庁舎・駐車場の借り上げ賃料及び、職員の移動にかかっていた人件費等
業務改善に伴う削減効果	約4300万円	業務用車両の台数削減、公文書ファイリングシステムの見直し等による効果
営業施設による収益	約1900万円	新庁舎に設置するコンビニエンスストアとカフェの賃料収入

☆建設費及び移転関連（什器・備品、引越し等）コストも削減中です

町田市の新庁舎にかかる経費は、計画当初、近隣自治体で新設された庁舎の経費を調べ、平均より10万円安い坪単価を基に、総額166億4000万円と想定しました。しかし、現在その経費は150億8000万円まで縮減しています。当初の計画から1割の経費削減を目指して、今後も更なる努力を続けていきます。

防災・災害復興拠点機能が強化されます！

耐震性能をはじめとして、各種の防災・災害復興拠点機能が強化されています。以下にその主な機能をご紹介します。

主な機能

項目	内容
耐震性能	耐震性能を通常建物の1.5倍の強度にすることで、震度7程度の大地震時でも安心して災害復興拠点として使用できます。
災害時の空からの対応	屋上にヘリコプターからの救援物資輸送や救援活動が可能なホバリングスペース（緊急救助用スペース）を設置しています。
防災関連諸室の配置	防災関連諸室を3階にまとめて配置しています。また、災害対策本部室には、迅速な災害対応に必要な設備を導入します。
防災センターの設置	2階に庁舎の防災センター（中央監視室）を設置し、庁舎内の火災発生や設備システムを24時間体制で監視します。
緊急車両専用通路	緊急車両専用通路を設けています。
受電電力	2回線で受電し、一方が停電しても、もう一方の回線で電力を確保できるようにしています。
発電設備	発電設備容量を1500kVAとし、通常時の電力使用量の約60パーセントを、復旧の目安である72時間分確保できるようにしています。
集中豪雨への対応	地下のピットに雨水調整層を1100㎡分設け、境川への流量負荷を軽減します。

環境にやさしい庁舎になります！

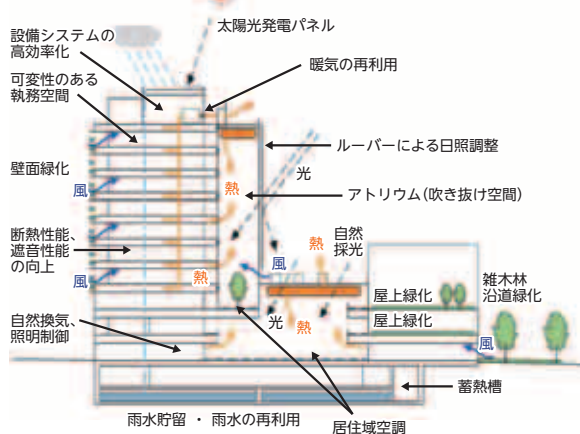
ビルのエネルギー使用量の監視を行うシステムの導入や自然エネルギーの活用、屋上緑化等、環境に配慮した設計となっており、建築物総合環境性能評価（CASBEE）で最高評価（Sランク）の認証を取得しました。

同規模の標準的な建物との比較

CO₂排出量（年間）
約1300トン減

※都市ガス料金換算で、年間約6000万円減

環境に配慮した新庁舎の設備



アトリウムによる温熱環境負荷軽減

〈その他の主な環境負荷低減設備〉

- ・太陽光発電
- ・雨水の再利用
- ・照明制御システム
- ・屋上緑化
- ・ビルエネルギー管理システム



ホバリングスペース（屋上）



非常用自家発電設備